CLF REPORT

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート

Center for Learning support and Faculty development report

2015.3
vol.22

01 P2-P4
各部会活動報告
FD支援部会
大学院教育検討部会
学習支援検討部会

02 P5-P7
開催報告
ナンバリング相談会
授業デザイン研究会
ラーニング・コモンズ運営状況
学習相談
エリア別利用状況
LA研修評価会

03 P8-P10
各学部・研究科・
センターFD活動報告
学外FD企画参加記
2014年度
「大学入学準備講座」開催報告

04 P11-P12
2015年度教育方法・
教材開発費採択テーマ
FD関連企画のご案内
センター事務室からのお知らせ
新着図書情報
コラム 大学教育の今

各部会活動報告

FD支援部会　活動報告

FD支援部会長　山田 礼子

2014年度のFD支援部会の事業計画には、①アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討、②「大学入学準備講座」の企画、③FDに関する意識高揚活動の実施、④FD講演会・ワークショップの開催、⑤その他（検討を必要とする各種課題）の５項目を掲げました。

① アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討については、学生に対して有効なフィードバックを実施するためにも、まず学生へのアンケート実施の周知や広報の仕方について検討を行いました。学生への新たな案内周知チャンネルの検討の結果、同志社学生新聞局所管の「同志社學生新聞」や同志社大学公式Facebookへの掲載を新たに実施しました。

また、授業評価アンケート等における学生からの授業への要望や声を授業にどのようにフィードバックしていくのかについて、学習効果が期待できる授業の手法や技法のアイデアを情報共有し、意見交換する場として『授業デザイン研究会』を開催しました。研究会の模様は、本学教職員専用のHPに動画をアップしており、新任教員研修会でもご案内します。

②「大学入学準備講座」の企画については、受講者数も例年並みで推移し、恒常的な行事として安定した運営ができており、来年度も継続して実施する予定です。また、講座については全て収録し、ストリーミングシステムで動画配信しています。

③ FDに関する意識高揚活動の実施について、高等教育界やFD活動の最新動向で注目すべき事項について、メーリングリストや当センターHP等で情報提供を行ってきました。また、「同志社大学学習支援・教育開発センター年報」の投稿規定の改訂を行い、高等教育およびその関連領域に関する実践報告、活動報告等に加え、高等教育に関する学術的および実践的研究を促進することを目的に、研究論文と文献紹介を投稿対象として新たに加え、本学教職員、嘱託教員、大学院生を対象として広く原稿を募りました。

④ FD講演会・ワークショップの開催では、IRのミッションや組織上の位置づけ、データ収集や分析の方法等についての情報提供及び、ナンバリング制度の導入に向けた作業説明会とコンサルテーションを開催し、全学部・学科にまたがる横断的共通課題については、学習支援・教育開発センターでチューニングを行い、フィードバックも行いました。

以上の項目において、本年度も委員の皆様からのご意見を頂戴し、事業計画を推進することができました。委員の先生方のご協力とご支援に感謝申し上げます。

キャンパスライフに関するアンケート調査　今回のテーマ分析：「部活・サークル活動と学業成績の関係」

昔にくらべ、学生は勉学に重点をおき、授業に対する満足度も高まる傾向にある。こうしたことは学生が授業中心的な生活をおくるようになったことを示唆する。ただ、学生にとって代表的な課外活動である部活・サークルへの参加が顕著に減少したわけでもない。今も昔も、部活・サークルが学生にとって代表的な課外活動であることに変わりないのだ。こうした部活・サークルへの参加は学業成績と排他的な関係にありそうだが、実際はどうだろう。2013年度キャンパスライフに関するアンケート調査のデータを用いて検討してみた。

図１　部活・サークルの種別とGPAの関連

図２　部活・サークルの活動時間とGPAの関連

※ 数値はGPAを従属変数とした重回帰分析の結果から得られた標準化係数
※ 図１、図２とも「各学部の差」「入試形態」「授業に対する取り組み」を統制済
※ ** p< 1%　* p< 5%

図１は、部活・サークルの種別とGPAの関係を示している。「無所属」を基準（0.000）とした場合、「公認体育会」へ参加する学生のGPAは低く、「非公認学内団体」へ参加する学生のGPAは高いということがわかる。図２は、一週間の部活・サークルの活動時間とGPAの関係を示している。「０時間」（＝無所属）を基準（0.000）とした場合、「21時間以上」部活・サークルに参加している学生のGPAは低いが、「１-５時間」部活・サークルに参加している学生は高いGPAとなっている。つまり、部活・サークルへの参加と学業成績の関係は、単純に排他的な位置づけになっていないのである。もちろん、GPAは各学生の在籍する「各学部の差」、各学生の経た「入試形態」、各学生の「授業に対する取り組み」に大きく影響を受ける（2012年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査結果報告書: 119-127を参照）。また、授業に対する取り組み等は、部活・サークルへの参加状況とも関係することが考えられるため、ここではそうした影響を取り除いている。

こうした分析結果は、おそらく、学業成績に対する部活・サークル内に備わった学生の互恵関係をあらわしている。各講義の課題を遂行するための術や難易度など、単位履修に必要な情報が各部活・サークル内で蓄積されており、学生はそこからそれら情報を得、利用することができるのだ。だが、部活・サークルの活動時間は、当然ながら学習時間と排他的関係が想定されるため、図２のとおり、活動時間が長すぎるとGPAは低下する。「１-５時間」が学業成績に正の関係を示すのは、部活・サークルの友人間で共有されている情報を得るための信頼関係を構築するに必要な最低限の時間といえるのかもしれない。少なくとも、学生の学業を規定する要因が大学内の授業だけではないことを示唆しているといえそうだ。

（詳細は『2012・2013年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査結果報告書』を参照されたい。）

大学院教育検討部会　活動報告

大学院教育検討部会長　武藏 勝宏

2014年度の大学院教育検討部会では、①大学院生のキャリア形成支援方策の検討、②TA研修制度の検討、③大学院教育充実のための情報提供と意見交換、④修士論文審査基準の検討の４点を事業計画として挙げました。

①の大学院生のキャリア形成支援方策については、本学の大学院生のキャリア支援に関する意識とニーズを把握するため、「キャリアビジョンに関するアンケート調査」を実施しました。回答者は約600名、回収率は約25%でした。アンケートの結果、将来のキャリア形成に役立つ大学院共通科目の開講を希望する回答者が半数を超えており、また、大学院の授業科目を通して身につけたい力として、約６割から７割の回答者が、文献や資料を読んで要点を理解する力、課題を解決する力、ものごとの問題点を発見する力、プレゼンテーションの力、科学的・数量的にものごとを見る力、柔軟に思考する力、研究をマネジメントする力を挙げていました（下記グラフ参照）。こうした本学の院生のニーズを踏まえ、本部会では、全学の大学院共通科目の設置により、大学院の基礎教育の充実を図ることを検討課題として懇談を行いました。その結果、当面の運用として、アカデミック・ライティングや研究方法論、英語スキルやインターンシップなどのキャリア形成支援科目を特定の研究科で開講し、他研究科の大学院生にも受講可能とする他研究科履修方式を試行して単位互換性を図ること、試行の結果を踏まえ、次年度以降、全学共通教養教育センターの大学院版のようなプラットフォームの可能性をFDの観点からさらに検討していくこととなりました。

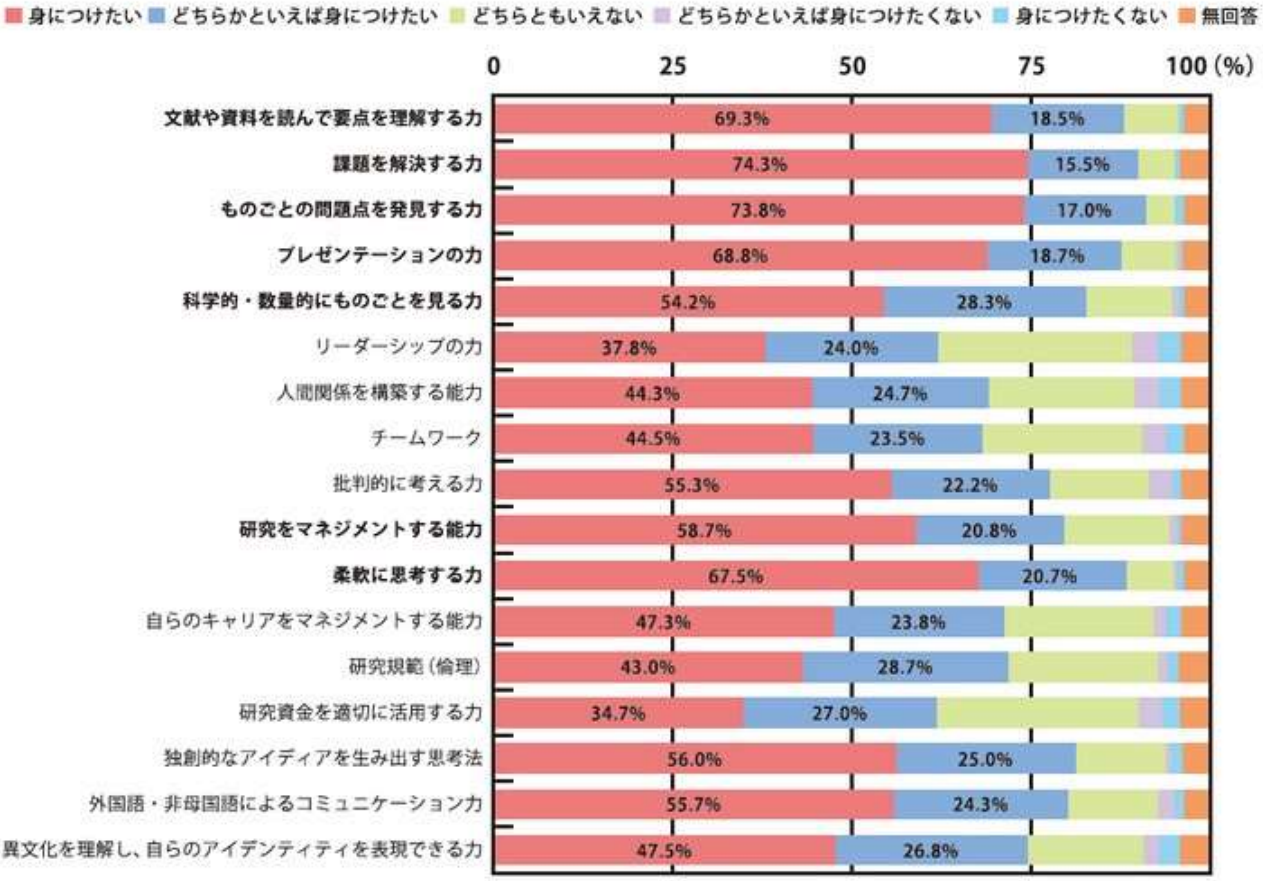
②のTA研修制度の検討については、前年度の実績を踏まえ2015年度のTA研修会実施要領を決定し、LA研修プログラムとの連携を図ることとしました。2014年度では研修会に新任のTAを中心に400名強の参加がありました。講師としてTA経験のある若手教員にも助言役をお願いし好評でした。

③の大学院教育充実のための情報提供と意見交換では、各研究科における取組の紹介や、文部科学省の施策、他大学の動向等の情報提供と意見交換を行いました。また、同志社大学が受審した機関別認証評価の結果を踏まえ、大学院教育の改善事項について意見交換を行いました。その結果、④の修士論文審査基準の検討について、各研究科で基準策定を検討していただき、全研究科で明文化を実現することとなりました。

ご多忙な中、部会運営にご協力いただいた委員各位並びに本学の関係各署に感謝申し上げます。

キャリアビジョンに関するアンケート調査　2014年７～８月実施

Q. 次のような力を大学院の授業科目を通して身につけたいと思いますか？ そうは思いませんか？



対象：2,408名　有効回答：600名　回答率：24.9%（WEB 23.7%, 調査票26.1%）

学習支援検討部会　活動報告

学習支援検討部会長　百合野 正博

2014年度の学習支援検討部会では、①学習支援プログラムの企画・開発と評価方法の検討、②学部教員（初年次教育担当者等）との連携協同モデルの検討、③良心館ラーニング・コモンズの広報活動の強化、④京田辺校地ラーニング・コモンズの運営方針の検討の４点を事業計画として掲げました。

①学習支援プログラムの企画・開発と評価方法の検討について、まず企画・開発面では、2013年度に実施した学習支援プログラムを再度精査すること、また図書館の企画するプログラム、ITサポートオフィスが企画するプログラム等と連携しながら、内容重複の調整や企画段階の相互支援を行い、学内における学部間横断学習支援プログラムとして整合性を持った体系にしていくことを検討してきました。

②学部教員（初年次教育担当者等）との連携協同モデルの検討は、すでに学生に対してシラバスで「授業外学習」としてラーニング・コモンズでの講習会への参加を指示される例もみられ、正課の講義内でのラーニング・コモンズ案内ツアーや出張アカデミックスキルセミナーを実施しているケースも増えてきています。春学期は主に今出川キャンパスにある学部に対して、秋学期は京田辺キャンパスにある学部を中心に学部個別訪問を行ってきました。各学部からのご意見をふまえ、実際に対応が可能なものについては、学部教員と連携協同する具体的なモデルを構築・提案したいと考えています。

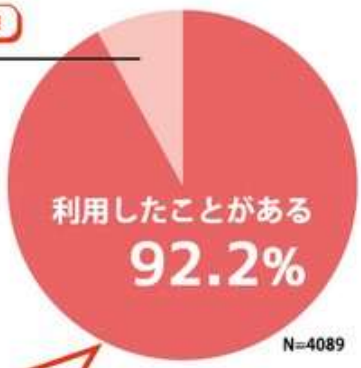
③良心館ラーニング・コモンズの広報活動の強化について、良心館ラーニング・コモンズのＨＰ内に、予約エリアの空席参照画面をリアルタイムに表示するページを立ち上げ、ＰＣやスマートデバイスからの閲覧を可能としました。

④京田辺校地ラーニング・コモンズの運営方針の検討は、大学の方針として（１）京田辺校地のラーニング・コモンズをラーネッド記念図書館の１階に設置する、（２）図書館とラーニング・コモンズの両者がうまく機能を分担し、協同できる形で施設全体のプランを策定する、ことが確認されています。各部会委員の先生方からも、良心館ラーニング・コモンズの感想や京田辺校地ラーニング・コモンズの早期設置への期待を伺うことができました。そこで出ていた機能のニーズ（交流やディスカッションの場、リメディアル教育に利用する場、発表・会話を重視した実践的な語学練習ができる空間設定等）は、基礎案に反映されるよう働きかけます。

本年度も、部会運営にご協力いただいた委員各位並びに本学の関係各署に感謝申し上げます。

良心館ラーニング・コモンズの利用に関するアンケート調査　速報版

ラーニング・コモンズ（LC）利用経験



学年

	度数	パーセント
1年次生	1394	34.1
2年次生	1213	29.7
3年次生	1004	24.6
4年次生	473	11.6
その他＊	2	0.0
無回答	3	0.1
合計	4089	100.0

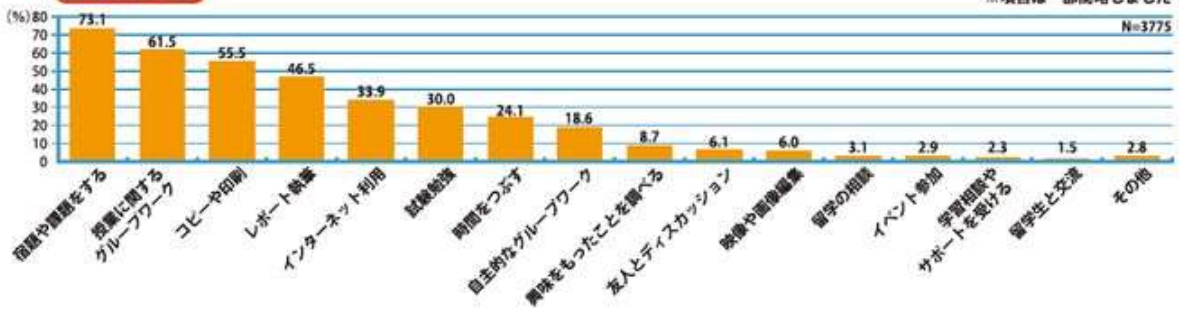
＊科目等履修生など

性別

	度数	パーセント
男性	2039	49.9
女性	2008	49.1
答えたくない	36	0.9
無回答	6	0.1
合計	4089	100.0

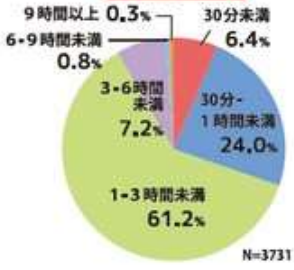
LC利用目的

※項目は一部簡略しました



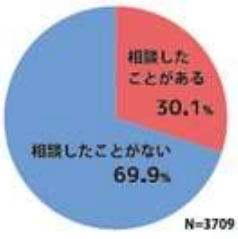
LC利用頻度

LC滞在時間



LC利用満足

スタッフ、LAに相談の有無



開催報告

2014年度ナンバリング相談会

ナンバリング制度導入にあたり、各学部のナンバリング作業の過程で生じた疑問や課題、作業完了に向けた調整事項を確認することを目的として、学部ごとの個別相談会を開催しました。

日時 10月23日（木）　14：00～18：00
10月24日（金）　10：00～17：00

会場 今出川キャンパス　光塩館地下会議室
京田辺キャンパス　情報メディア館101・102教室
（一部テレビ会議システム利用）

講師 田中正弘氏（弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室長）

講師には、昨年度のナンバリング試行ワークショップ、及び8月のナンバリング作業説明会に引き続き、弘前大学の田中正弘先生にお越しいただきました。当日は、既に各学部で進めているナンバリング作業の過程で生じた疑問（科目分類付与の判断、独自分類が必要な科目等）について相談が寄せられ、履修要項やシラバスを用いながら細かなアドバイスをいただきました。参加学部各1時間程の限られた時間でしたが、作業完了に向けた今後の方針を確認する良い機会となりました。

授業デザイン研究会

学習効果が期待できる授業手法や大規模授業における運営方法などのアイデアを情報共有し、意見交換することを目的として、本学教職員を対象に授業デザイン研究会を開催しました。

日時 12月12日（金）　18：20～20：00

会場 今出川キャンパス　寧静館5階会議室
京田辺キャンパス　ラウンジ棟207会議室（テレビ会議システム利用）

ゲスト 中野民夫氏（本学政策学部 教授）
大森崇氏（本学文化情報学部 准教授）
宿久洋氏（本学文化情報学部 教授）

今回初めての開催となる授業デザイン研究会のゲストには、ユニークな手法を授業に取り入れている、本学教員の中野民夫先生、大森崇先生、宿久洋先生にお越しいただきました。

はじめに各先生方より、グループワークを活発にするための工夫や授業内で使うさまざまなアイテムなど、実際の授業で取り入れている手法を授業風景の映像や資料を用いながらご紹介いただきました。

その後参加者から授業手法を取り入れる際の弊害やその効果などについて質問が寄せられ、活発な意見交換が行われるなど、日々試行錯誤を重ねる教員同士が互いに学びあえる研究会となりました。今後も授業改善に役立つ情報を共有できる機会を提供し、学生のアクティブな学びを取り込んだ授業が広がっていくことを期待しています。

当日の動画・資料を「教職員のページ」内の「教職員研修」ページ（本学教職員のみ閲覧可能）で公開していますので、ぜひご覧ください。

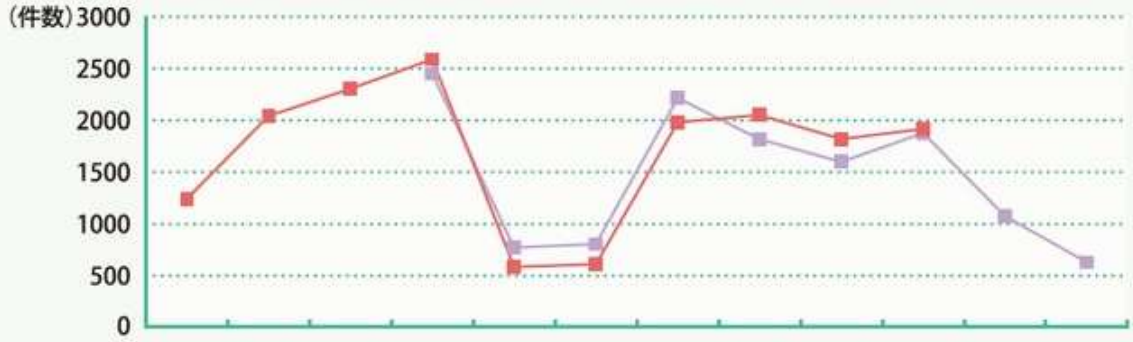
ラーニング・コモンズ運営状況

エリア別利用状況

良心館２階のインフォダイナー、３階のグループスタディルームの各月の利用状況のデータをまとめたのが下のグラフです。インフォダイナー、グループスタディルームともに、春学期と秋学期の授業期間中（試験期間含む）に多く利用されていることが分かります。

２階 インフォダイナー利用状況（月合計）

インフォダイナーは全16エリアが予約対象　予約開始は、2013年７月以降



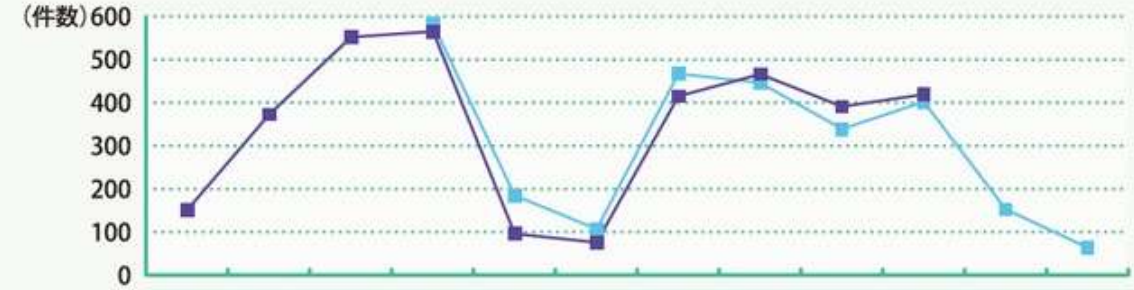
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				2452	771	805	2215	1818	1599	1877	1075	630
2014年度	1241	2042	2305	2589	585	610	1981	2051	1819	1917		

インフォダイナー

グループスタディルーム

３階 グループスタディルーム利用状況（月合計）

グループスタディルームは７部屋中５部屋が予約対象
予約開始は、2013年７月以降



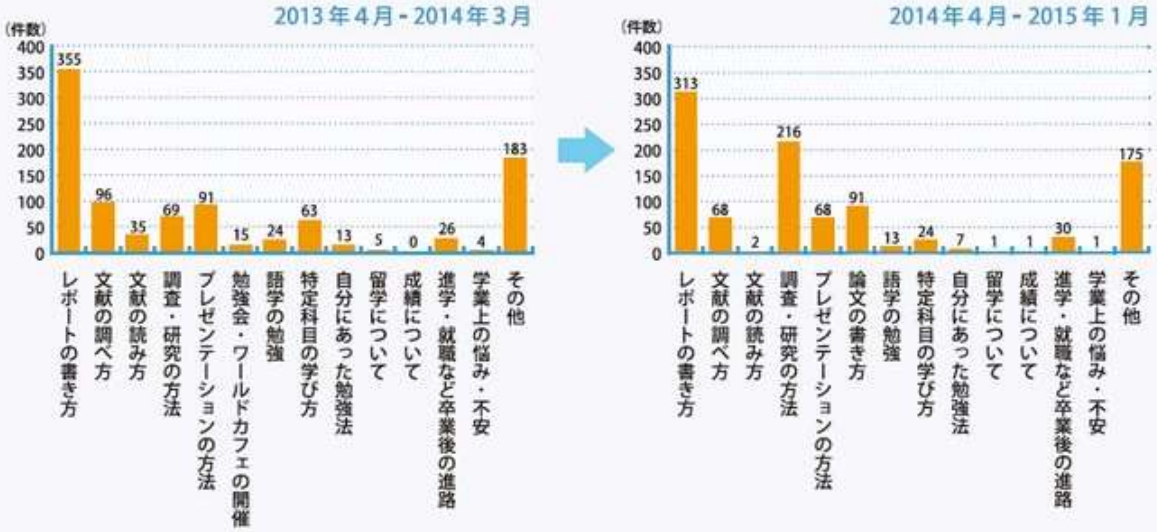
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				582	185	107	467	446	339	402	153	64
2014年度	152	373	552	565	96	76	415	466	391	419		

学習相談

良心館３階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターやLA（ラーニング・アシスタント）が学生の学習相談に乗っています。2015年１月にデータを再集計したところ、2013年度は相談者延べ755名、相談件数は979件でした。2014年度は１月末時点で、相談者延べ867名、相談件数は1,010件あり、昨年度を上回る相談が寄せられています。いずれも「レポートの書き方」に関する質問が多いようです。

学習相談受付状況（内容別）

※2015年１月にデータの再集計をおこなった



ＬＡ研修評価会

学習支援・教育開発センターが５月から６月に実施したLA研修プログラム※について、専門の先生より外部評価をいただくことを目的として、12月13日に関田一彦先生（創価大学教授）、12月17日に夏目達也先生（名古屋大学教授）をお招きし、LA研修評価会を２回にわたって開催しました。

当日は３名のアカデミック・インストラクターからＬＡ研修の概要、成果、課題を説明した後、質疑応答、数名のＬＡへのヒアリングも行われ、最後に口頭による講評をいただきました。ＬＡ研修に対する好意的な評価をいただいた上で、ＬＡ研修の一部をＴＡ研修にも組み込み、より多くの大学院生に参加してもらってはどうかとのご意見もいただきました。今回の評価を受けて、次年度のＬＡ研修プログラムに反映させていく予定です。

※ ＬＡ研修プログラムとは…
良心館３階のアカデミックサポートエリアでＬＡ（ラーニング・アシスタント）として勤務するにあたり、必要なスキルを学ぶための講習会です。

12月13日 関田先生による評価会の様子

12月17日 夏目先生による評価会の様子

良心館ラーニング・コモンズの情報は、以下のURLよりご参照ください。

良心館ラーニング・コモンズHP　http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/

※学習支援・教育開発センターHP（http://clf.doshisha.ac.jp/）からでもアクセス可能です。

各学部・研究科・センターＦＤ活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるＦＤ活動の報告を順次掲載していきます。

神学部　四戸 潤弥

神学部ではＦＤ活動として１年次生を対象としたアカディミックライティングの科目を2014年度から設置した。これは１年次春学期設置必修科目神学入門と対応させた科目で論文、レポートの書き方を指導するものである。履修生はルールを前提とした書く技術を、毎回の講義＋問題演習、そして３回の小テスト（教員による添削付）を通して学ぶ。また履修サポートとして2013年度から１年次の履修状況を基に、サポートが必要な学生を対象に主任が直接面談して改善計画などを話しあう機会を設け指導に当たっている。さらにグローバル化に対応した科目として宗教学演習１，２、一神教研究１，２が設置されている。講義及び質疑、応答はすべて英語で行うもので学生の外国語による発信能力を高めることを目的としている。内容は一神教と日本仏教である。日本の宗教状況が外国語でどのように表現されるかを体験できる。その他として、教員各自が外部講師をゲストスピーカーとして招き、学生が研究の最前線の雰囲気に触れる機会を設けている。

司法研究科　佐々木 典子

司法研究科では、創立以来ＦＤ委員会を設置し、定期的に委員会を開催しており、その活動及び成果としては、以下のものがあげられる。

各教員が事前の連絡なしに、他の教員の授業を傍聴できる「授業傍聴週間」については、全ての科目について毎学期２週間設定されているが、2012年度から各教員に授業傍聴の割当表を配布し、傍聴を推奨するとともに、傍聴結果の報告の義務化、当該報告文書の授業担当教員への交付、学外の第三者の授業傍聴への参加により、教育方法の相互研鑽のみならず、授業改善にも資するものとなっている。

教育内容に関しては、2012年度より必修科目等において「習熟度別クラス編成」を新たに導入し、学生の理解度に応じた、より丁寧な教育や学習指導を可能にした。制度導入後もこの制度に関する学生へのアンケートを実施し、委員会でも継続的に検討している。

なお、「学生による授業評価アンケート」及び「授業に関する中間アンケート」等による、学生の評価・意見の聴取、教員側でのその集約・対応は従来通りなされており、必修科目の期末試験講評会の義務化・実質化、書面教育のさらなる充実化も図られている。

ビジネス研究科　児玉 俊洋

2014年度ビジネス研究科の活動として特筆すべきことは、グローバル経営研究専攻を新設するとともに既存のビジネス専攻についてカリキュラムの大幅な見直しを行ったことである。グローバル経営研究専攻は、2009年度以来ビジネス専攻内に設けられていた全ての授業を英語で実施するグローバルＭＢＡコースを母体としてカリキュラムを発展させ、世界各国から学生を受け入れている。一方、日本語で授業を行うビジネス専攻のカリキュラムについては、「中小企業・地域経営」「イノベーション」「マーケティング」「会計・ファイナンス」「ビジネス環境分析」「ゼネラルマネジメント」の６分野に再編するとともに、各分野の基礎科目である共通科目Ａを社会人が受講しやすい土曜日を中心に配置する等の時間割の改変を行い、さらに、ソリューションレポートの一層の向上に向けてその指導を行うプロジェクト研究科目の開始を早めるなどの見直しを行った。また、定例のＦＤ活動としては、授業評価アンケートおよび教員相互のＦＤ研究会を実施している。

各学部・研究科・センターＦＤ活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのＦＤに関する取組に対し、年間一律30万円をＦＤ活動費として配分しています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

ＦＤ活動費（ＦＤ支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- ＦＤ合宿関連費用
- ＦＤ関連書籍購入費用
- ＦＤ講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に関する費用（講師謝礼）　等

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。

＊会合費について
・研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は１人あたり単価1,200円（税別）までとする。
　また、夕食時における学外講師との懇談費用等の場合は１人あたり単価3,000円（税別）までとする。
・会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はp.11でも紹介しています。

平成26年度 FDのための情報技術研究講習会

日時　2015年2月25日（火）～2月27日（金）
主催　私立大学情報教育協会

グローバル地域文化学部　向　正樹　准教授

近年、通常は授業でやるような講義内容を自宅などで事前学習させ、授業では質疑や討論を中心に行うという、「反転授業」が盛んである。今回の講習会でもそれが主要テーマとなった。創価大学における事例で紹介された「予習ノート」は、アナログながら大変工夫されており、興味深かった。たんに課題を読ませるだけでなく、語彙調べ、中心的主張の把握、疑問点の列挙など内容理解にかんする細かい項目や、既知のことと新知識を比べる、学んだ知識をどう生かせるか、という関連付けにかんする項目もあった。さらに授業内での発言に向けリハーサルも課す。「反転授業」成否の鍵はこうした細部の工夫にもあるのではと感じた。山梨大学では、学生が事前学習で視聴する動画を、教員が簡単に作成できるシステムを開発したという。新システム導入には慎重意見もあるだろうが、効果を数値で示そうと努力する姿勢は、大変参考になった。

講習会ではグループ別の参加型ワークショップも行われた。私は「タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース」に参加し、「右脳世界史」という自作のyoutube動画をリンクさせた電子書籍教材を発表し、オンラインで公開した。ところで、近年の「反転授業」のように、コンテンツをオンライン公開する場合、これまでは授業時間内での使用という限りにおいて許容されてきた、様々な著作権がらみの問題が生じる。今回、専門家が個別に相談に応じる場が設けられ、今後の法整備などの展望も聞くことができ、大変有益であった。

こうして講習会が終わるころには、新学期の担当授業について、多くの新しい着想を得ることができた。それぞれ厳しい生存競争にさらされる職場に身を置く教員らと意見交換できたのも刺激となった。今後、ささやかなアクションとして、所属学部でICT Caféを定期的に開き、講習会で学んだ知識やスキルを他の教員仲間と共有していきたいと考えている。

大学教員のためのFD研修会

テーマ　大学授業デザインの方法 －1コマの授業からシラバスまで－
日時　2015年3月2日（月）
主催　日本教育工学会

文学部　赤松 信彦　教授

日本教育工学会FD特別委員会主催の大学教員のためのFD研修会に参加した。研修会は事前学習とワークショップの2部構成であった。事前学習では、講義受講と小テスト受験が課せられた。講義は、「インストラクショナルデザイン（ID）の視点から大学教育を考える」、「学習者について考える」、「学習到達目標を考える」、「方法を考える」の4つの課題から構成されており、動画配信による講義を受け、受講後に講義内容に関する問題に答えた。例えば、「IDの視点から大学教育を考える」では、学習目標、教育内容、評価方法のバランスが重要であること学び、自分が担当する授業及びその受講生の特徴について、ID理論・モデルに照らし合わせて考察した。また、「方法を考える」では、学習目標の達成を支援する授業方法の工夫に関する提案があり、講義形式以外の授業形態について考察した。対面講義中心の教育方法として、協調的グループ学習、発見学習、問題解決・実験などを、具体例を通して、その長所について考察した。このような動画配信による講義および小テストは、受講生の立場から反転学習を考える上で貴重な経験となった。

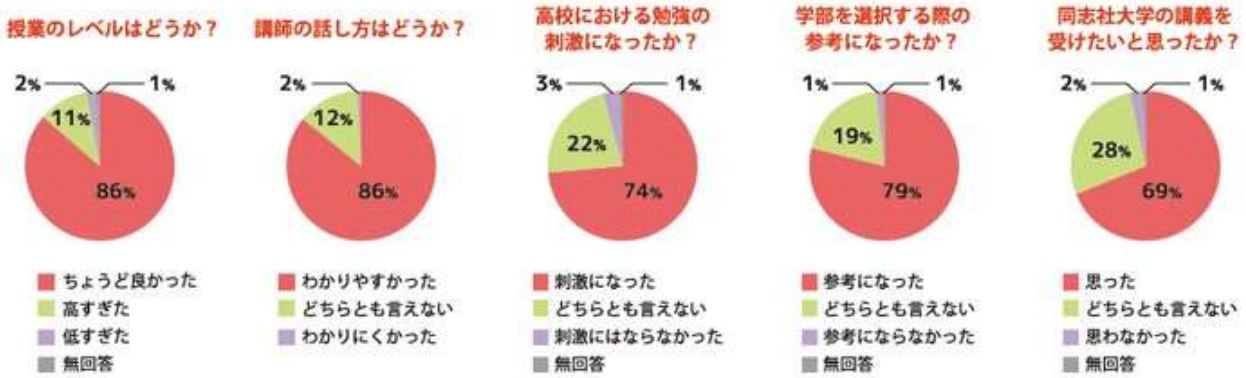
ワークショップは約4時間にわたって行われた。まず、ワークショップ参加者は4名のグループに分かれ、各自が担当する授業のシラバスとハンドアウトを共有しながら、現在抱えている問題について発表した。その後、ワークショップ参加者全員で授業に関する詳細とその課題について意見交換したのち、共通課題を持つ参加者同士がペアーになり、問題点に関する解決策について討論した。ワークショップの最後では、グループごとにペアーで話し合った内容を報告し合い、授業改善策について総括した。ワークショップ参加者の専門領域および担当授業は様々であったが、抱えている問題には共通点が多く、今回の研修会に参加することで、授業改善に繋がる示唆を多く得ることができた。

2014年度「大学入学準備講座」開催報告

2005年度より高校生向けに開講している「大学入学準備講座」（大学における必要な学力レベルを教えるための特設授業を提供することで、高校生に正しい学部選択の機会を与えることを目的としている講座）は、今年度も全学部14講座を開講し、44校の高等学校より延べ795名の高校生および同伴の保護者の方等（高校生750名、保護者等45名）に参加いただきました。

高校の授業との違いに戸惑いながらも、英語のプレゼンでは積極的に手を挙げ発表する姿や、クイズ形式の授業で盛り上がる姿、また先生が実験を始めるとその結果に喚声が沸き起こる姿もみられ、高校生が自ら学ぼうと授業に参加したことにより、大学での授業を体験する良い機会となったようです。

アンケート結果



講義風景

実験風景

受講者の声

高校生

- パンフレットを見るだけでは伝わりにくかった学部のことを知れた。本当に面白くて90分があっというまでした！ありがとうございました！
- 高校では学べないことを学べてよかったです。教科書には載っていないようなことを学べてよかったです。
- 自分が思っていたよりもレベルが高かったので、今のままじゃだめだと思いました。
- 高１で進路について考えるようになって以来、ずっと通いたいと考えている学部で、オープンキャンパスや模擬授業を今までにも数回受講しましたが、３年になったこの時期に受けられて、より通いたいという思いが強くなりました。
- 普段インターネット等でかじった知識が実際に授業で聞けて嬉しかったです。
- けっこう難しかったけど、これが大学の講義なんだなーと思った。
- 高校の勉強で習ったことがよく出てきて分かりやすかった。

講義を集約した講義録を発行しています。

保護者

- 子どもが講義を受けさせていただく内容として、非常にわかりやすく有意義であると思いました。
- 大学で何を学んでいくのかが具体的に示されていて良かった。普段、気づかないことをつきつめていくのが面白かった。
- 教員の親しみやすさ、面倒見の良さ、フリートークに興味ありました。生徒の様子も参考になりました。これ以上難しくなると印象が変わってしまうので、ちょうど良いと思います。
- 社会に出てすぐに使える力、プレゼンテーション能力を培うことができる授業スタイルがとても良いと思いました。娘には是非受講して欲しいと思いました。

動画コンテンツ

講義風景の動画コンテンツを公開しています。
（＊閲覧に必要なＩＤ・パスワードはお問合せください）

2015年度も「大学入学準備講座」の開講を予定しています。詳細については、決定し次第本センターホームページよりご案内します。

大学入学準備講座のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

2015年度　教育方法・教材開発費 採択テーマ

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を対象とする補助を行う「教育方法・教材開発費制度」を設置しています。

より多くの教員が教育改善に取り組むことを奨励する目的のA区分（1件あたり税込50万円以下）と、将来的に全学または学部・学科・研究科・センターレベルの教育改善に波及効果が期待できる取組を支援する目的のB区分（1件あたり税込200万円以下）を設け、2015年度は、この制度を利用してA区分5件、B区分1件の取組が行われます。

開発テーマ	所　属	申　請　者
A区分（1件あたり税込50万円以下）		
中国語学習者の学習効果をアップする 中国語文法の教授法 II	グローバル地域文化学部	張 軼欧
ネイティブ教員による理系技術者・研究者 育成特化型英語指導法(Academic English for Science)	理工学部 〃 理工学研究所	土屋 隆生 稲岡 恭二 Philip Tromovitch
持続可能な開発のための教育(ESD)に基づく意識調査の データ収集と教育プログラムの企画・実施	社会学部	William Robert STEVENSON III
タスクを中心とした教授法による初中級日本語教材の開発	日本語・日本文化 教育センター	築山 さおり　松本 秀輔 佐藤 紀美子　米澤 昌子
留学生のための日本のビジネスマナーと その背景理解のための教材開発	ビジネス研究科 グローバル・ コミュニケーション学部	近藤 まり 竹田 宗継
B区分（1件あたり税込200万円以下）		
文系学部生に求められる「高校数学」 自学自習プログラム開発	経済学部	角井 正幸　谷村 智輝　和田 喜彦 小藤 弘樹　新関 三希代　佐竹 光彦 宮本 大　上田 曜子

※これまでの採択テーマ及び成果報告書（本学教職員のみ閲覧可）は
学習支援・教育開発センターホームページ上に掲載していますので、以下のURLよりご参照ください。

教育方法・教材開発費制度のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html

※教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア　http://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるＦＤ関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください（本学専任教職員を対象とします）。

今後、学外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html

開催日程	企画名称	会　場
6月6日（土）・6月7日（日）	大学教育学会　第37回大会	長崎大学
6月19日（金）・20日（土）	New Education Expo 2015	大阪
6月27日（土）・28日（日）	日本高等教育学会　第18回大会	早稲田大学　早稲田キャンパス
8月28日（金）・29日（土）・30日（日）	日本リメディアル教育学会　第11回全国大会	北星学園大学
9月3日（木）・4日（金）	初年次教育学会　第8回全国大会	明星大学

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。
※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

センター事務室からのお知らせ

新任教員研修会／ＴＡ研修会開催のお知らせ

学習支援・教育開発センターでは、2015年度の新任教員向けおよびＴＡ向けの研修会を開催します。

対象者以外でも、本学教職員であれば参加可能ですので、ご希望の場合は学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。また、研修会の内容は、後日ホームページでも公開予定ですので、あわせてご覧ください。

新任教員研修会

日時 4月2日(木) 13:00～16:25

会場 今出川キャンパス：寧静館会議室（5階）

内容 ・ガヴァナンス、意思決定の仕組み
・グローバル化の取組 ・学生支援体制 ・教育活動
・入学試験業務 ・研究活動 ・教育・研究倫理

ＴＡ研修会

日時 4月7日(火)12:20～13:05、4月9日(木)12:20～13:05
4月10日(金)17:00～17:45

会場 今出川キャンパス：良心館ラーニング・コモンズ
京田辺キャンパス：恵道館201番教室、ローム記念館劇場空間

内容 ・ＴＡ制度、ＴＡの心得 ・ＴＡ経験体験談 ・ＴＡの事務手続き

※各研修会の詳細については、本センターのホームページをご参照ください。

お知らせのページ http://clf.doshisha.ac.jp/information/information.html

BOOKS　新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やＦＤ関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧いただき、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

ワークショップデザイン論
ー創ることで学ぶー

山内祐平、森玲奈、安斎勇樹（著）
慶應義塾大学出版会
2014. 6
ISBN：978-4-7664-2038-8

大学版ＩＲの導入と活用の実際

佛淵孝夫（著）
実業之日本社
2015. 2
ISBN：978-4-408-41671-7

ポストドクター
若手研究者養成の現状と課題

北野秋男（著）
東信堂
2015.1
ISBN：978-4-7989-1245-5

＊センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。
また、図書の他にも、ＦＤに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。下記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

図書資料のご案内ページ http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html

Column 大学教育の今　「エビデンスに基づいた学習 / 修成果の必要性」

学生の主体的な学びを促進するための環境として、同志社大学ではラーニング・コモンズを2013年に設置しました。2015年３月でオープンから２年になりますが、この間、学生の使用者数も目標としていた数値を達成するなど、量的な検証はできました。ラーニング・コモンズには学習支援等を専門とする３名の教員と大学院生のラーニング・アシスタントも常駐し、学生の皆さんの主体的な学びの実現に向けての支援を行っています。学生の授業外学習時間の状況について、グループで協同学習を行っているのか、主体的に学びにかかわるようになってきているのか等々、継続的に質的にも学生の授業外学修とラーニング・コモンズの関係や成果を検証する必要が不可欠です。こうした問題意識をもとに、学習支援・教育開発センターでは、ラーニング・コモンズと学生の学修についての質問紙調査を実施しました。その調査の知見として、例えば、ラーニング・コモンズを積極的に使う学生は「向学修」であり、教員、学生とラーニング・コモンズが有機的に連携することも大事であると言えるでしょう。これからも、ラーニング・コモンズが今以上に活用されるよう、学習支援・教育開発センターも様々な工夫を凝らしていきたいと考えています。

学習支援・教育開発センター所長　山田　礼子

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

「シーエルエフ レポート Vol.22」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2015年3月27日
発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区　同志社大学　明徳館
Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025
E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
http://clf.doshisha.ac.jp/